

妊婦の貧血と胎児・母体に及ぼす影響に関する研究

愛育病院産婦人科

藤 井 仁

青 木 正

日本総合愛育研究所

千 賀 悠 子

一定期間の愛育病院産科で分娩した産婦について調査し、妊娠経過中に貧血があった妊婦群と対照群とを比較し、妊婦の貧血が母子に与える影響を検討した。

1. 調査期間，対象

昭和51年9月1日より分娩し、かつ妊娠経過中に貧血が存在した妊婦100例，対照群100例について検討した結果、妊婦の貧血対象例として、Hbが $1.0.9\text{ g/dL}$ 以下、年齢は20~39才、在胎週数は24週0日以上、身長は $145\sim 165\text{ cm}$ とし、これらの条件にあてはまる妊婦のうち、さらに糖尿病、帝切例、多胎妊娠例、あきらかな子宮筋腫合併例などは除外した。対照群としては妊娠経過中絶えずHbが $1.1.0\text{ g/dL}$ 以上であり、年齢、身長、在胎週数、除外例は妊婦の貧血対象例と同様である。以上の結果、最終的には妊婦の貧血群は80例、対照群は56例となった。児の対象例は全対象妊婦より出産した児136名である。

2. 調査項目

- 1) 貧血の程度と年齢との関係
- 2) 貧血の程度と初産，経産との関係
- 3) 貧血の程度と分娩週数
- 4) 貧血の程度と分娩時間との関係
初産婦
経産婦
- 5) 貧血の程度と微弱陣痛
- 6) 貧血の程度と分娩時出血量との関係
- 7) 貧血の程度と妊娠中毒症との関係
- 8) 貧血の程度と浮腫

- 9) 貧血の発現時期と年齢
- 10) 貧血の程度と浮腫発現時期との関係
- 11) 初・経産別の貧血発現時期
- 12) 妊娠週数別浮腫出現率
- 13) 妊娠週数別妊娠中毒症出現率
- 14) 対象児についての検査及び観察成績

妊婦の貧血例のうちHbが $1.0.0\sim 1.0.9\text{ g/dL}$ を軽症貧血、 9.9 g/dL 以下を重症貧血とした。尚、有意差検定は χ^2 検定(有意水準5%)により行った。

1) 貧血の程度と年齢との関係

年齢を20才台と30才台とに分けて貧血群と対照群とを比較してみると30才台の方が貧血例が多くなっている傾向は認められるが有意差はなかった。

2) 貧血の程度と初産，経産との関係

初産と経産との間には貧血の程度の有意差は認められなかった。

3) 貧血の程度と分娩週数

文献的には貧血のある妊婦は早産傾向があると云われているが、本調査においては貧血妊婦の方が分娩週数が短いという結果は得られなかった。

4) 貧血の程度と分娩時間との関係

(初産婦)対照群と重症貧血群との間には有意差があり、重症貧血群の方が分娩時間は長くなる。

(経産婦)平均値では対照群と重症貧血群との間には有意差はなかったが、重症貧血群の方が分娩時間が長い傾向はある。調査例数が

- 倍位あれば有意差があるように思われる。
- 5) 貧血の程度と微弱陣痛
初産婦では対照群と重症貧血群との間に有意差あり、重症貧血群は微弱陣痛の頻度は高い。経産婦では有意差はない。
 - 6) 貧血の程度と分娩時出血量との関係
今回は対照群、貧血群のそれぞれの出血量の平均値による比較検討は行わなかったが、出血量500ml以上の例数を対照群と貧血群と比較してみると、有意差はない。出血量750ml以上の例数を比較してみると、貧血群および重症貧血群の方が対照群より例数が多くなっている。
 - 7) 貧血の程度と妊娠中毒症との関係
妊娠中毒症分類は図Iに示す如く東大分類にしたがい、軽症I、軽症II、重症妊娠中度症とした。
対照群と貧血群との間に妊娠中毒症罹患の有意差は認められなかった。
 - 8) 貧血の程度と浮腫
対照群と重症貧血群との間に浮腫の有無の有意差は認められなかったが、重症貧血群の方が浮腫が多いという統計的傾向はある。
 - 9) 貧血の発現時期と年齢
妊娠27週以前では30才台の方が20才台より貧血発現時期が早い。これは妊娠による負荷が高齢程早い時期からかかり易く、また若い程妊娠に対する適応力があると考えられる。
 - 10) 貧血の程度と浮腫発現時期との関係
対照群と貧血群との間に浮腫発現時期の有意差は認められなかった。両群共36週以後にPeakがある。
 - 11) 初、経産別の貧血発現時期
経産婦の方が初産婦より貧血が早く現われる。
 - 12) 妊娠週数別浮腫出現率
貧血群の方が対照群よりも浮腫は早い時期に出現する傾向にある。
妊娠週数別妊婦の貧血の出現率は一般に漸増の傾向にあると考えられているが、本調査では24W~27Wで理由不明の減少が認められた。
 - 13) 妊娠週数別妊娠中毒症出現率
貧血群と対照群との妊娠中毒症出現率の週数別比較を試みた。貧血群の方が早い時期に妊娠中毒症になるだろうとの予測で調査したが例数が少なく検討不可能と思われる。
 - 14) 対象児についての検査及び観察成績
対照群、軽症貧血群、重症貧血群の妊婦より出産した児の出生時体重、仮死の頻度、ビリビン値、ヘマトクリット値、赤血球数、血色素、日齢5日までの体重減少状態等の平均値および満1歳時歩行通過率を各群別に比較検討したが、いずれも対照群と軽症、重症貧血群との間には有意差は認められなかった。
初年度として、調査期間、調査対象数、調査項目等を限定して検討したが、これだけの結果で結論を出すには不十分であり、また対象数が少ない為に調査結果を検討するには不可能な項目もあった。本年度は他の研究グループと重複することも少なからずあったので、次年度は他の研究グループとも連絡を密にし、本調査の結果を参考にして本調査の不足点を補い、対象数を増やし、何か研究テーマの結論を見出したいと思う。

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

一定期間の愛育病院産科で分娩した産婦について調査し、妊娠経過中に貧血があつた妊婦群と対照群とを比較し、妊婦の貧血が母子に与える影響を検討した。